

令和4年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100801		
法人名	社会福祉法人 つくし会		
事業所名	グループホーム百代ハウス		
所在地	〒038-2701 青森県西津軽郡鯉ヶ沢町大字北浮田町字今須87番地1		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和4年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の状態や気持ちに寄り添えるような支援が出来るように心掛けています。近年は、コロナウイルス等の感染症により外出が思うように行えない分、四季折々の自然を感じられる広い敷地内での散歩や飼っている動物との触れ合い、敷地内の畑で農作物を育てたり、草取りを行ったり、収穫をするなど、一年を通して楽しみが持てるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

眼下に日本海を望める高台に位置し、周囲は針葉樹に囲まれた静かな環境で、天気の良い日は気軽に散策が出来る。犬を飼い山羊や鶏を放し飼いでおり、触れ合う事で心の癒しになっている。同敷地内に、特別養護老人ホームを始めとする法人が経営する複数の事業所があり、状態や機能変化に対し、要件に応じた受け入れが可能である。農作業が出来る利用者が数名居り、野菜畑を作り植え付けから水やり等の管理をしており、トマトや茄子・じゃがいも等の収穫は、同敷地内にある保育園の子供たちと一緒にいき、世代間交流も活発で、達成感と生きがいのある生活が展開されている。法人の経営理念をベースに事業所独自の理念を掲げ、個人の想いを大事に手厚く細かいケアを実践し、笑顔と喜びを分かち合いながら地域の一員としての生活が出来るよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日申送りの際に唱和し確認している。また、理念について職員がどのように考えているか、理念に近づくための目標などを話し合う勉強会を行っている。	個々の特性に合わせ、その人らしさを大事にした理念を掲げている。職員は、専門の視点で個別の状態を観察し、何を想い、何が出来るのか見極め、有用感をもち地域と繋がり生活する事を支援し、理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、草刈りや泥上げ、総会などに参加している。予定していた保育所との農作業を通じた交流会は新型コロナウイルス感染症予防の為中止となる。	町会に加入し、住民が高齢化している現状に鑑み、理事長は率先して活動に参加し貢献している。法人のダンプや軽トラック等も貸し出し、事業所の資源が地域に有効に活用されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が認知症の事で困っている際には職員が個々に相談にのったり、認知症について説明など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催予定の運営推進会議は、新型コロナウイルス感染症予防の為、中止となっている。よって、サービス状況等を利用者の御家族・町内会長・民生委員・町へ書類等にて報告している。また、利用者の御家族・町内会長・民生委員・町の職員などから寄せられた意見等を参考にサービス提供に繋げている。	行政指導で隔月の書面開催となっている。身体拘束廃止への取り組み、活動報告と今後の予定、利用者状況、感染対策、事故等文書で報告し便りも同封している。出された意見は現場に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から市町村職員や地域連携室と連絡を取り合っている。何かあれば都度、相談や報告を行っている。	コロナ禍で窓口訪問は少なくなっているが、過去に料金滞納で難儀したケースがあった時、町の担当者に相談し親身に対応して頂き解決した事例があり、協力体制は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、事業所内で勉強会を行い職員全体で取り組んでいる。身体拘束をされている利用者の方はいないが、防犯上夜間は玄関の施錠を行っている。	規程を作成し、拘束の弊害や該当する行為、止むを得ない拘束等明確にしている。3ヶ月毎の会議で現状確認を行い、年2回の内部研修で周知を図り、全職員に報告書を提出してもらい、理解度も点検している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、職員間で注意を払いながら防止に努めている。年に1回ストレスチェックを行い職員のストレスについて把握。申し送り時にケアについて話し合い、悩みを抱え込まないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当職員間で当制度について勉強会をし、現在活用している利用者への支援に役立っている。また、必要性があれば相談を受けいつでも支援に繋げることが出来る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族には文書及び口頭にて丁寧に説明を行い、分からない事や不安な点がある場合はいつでも問い合わせが出来るよう連絡先を伝えている。また説明内容についてご理解いただいた場合は同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望について入所の際に説明を行ったり、ケアプラン作成時に電話にて家族へ確認をしている。また苦情受付のポスターを入り口に貼り、面会時に家族が見れるようにしている。	利用者や家族からこれまでの生活状況と事業所での希望を聞き取り、過ごしやすい環境作りに努めている。入居契約時に重要事項説明書を以て外部の相談窓口を紹介している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時やその都度職員からの提案を受け入れ、代表者会議等で報告し反映している。	意見が出し易い環境で、育児をしている職員は、自己申告し勤務時間を短縮してもらう等柔軟な対応がなされている。年1回の自己評価時に理事長と面談し、意見や希望を出し現場に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と上司が人事評価シートを記入し、それを基に事務局長や施設長との面談があり、個々の努力や実績を把握している。その際、職員から直接要望や意見など汲み取り、やりがいや向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外部の研修に参加できるように勤務などを配慮している。認知症実践者研修には毎年職員が参加できるようにしていたが、近年は新型コロナウイルス感染予防の為、参加していない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH交流会等で町内外のグループホーム職員と交流し、情報や意見の交換、勉強会を行っていたが、近年は新型コロナウイルス感染予防の為、参加していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にケアマネから情報をもらい、可能な場合は本人と面談しアセスメントを行う。面談の際に本人の要望や不安に思っている事などを聞き安心して利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在施設見学は実施していないが、入所前に居室の写真を見ていただき、その際に不安な事や要望を聞くようにし、利用開始時に安心して利用できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にアセスメントを行い本人・家族の要望を聞き、必要な支援を検討しそれに対応している。必要があれば関係機関に連絡し連携を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の茶碗拭きやタオルたたみの軽作業など行ってもらっている。やりがいをもって生活できるような関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆が途絶えぬよう毎月本人の近況をお手紙でお伝えしている。また、本人の心の支えとなっている家族等といつでも気軽に面会できるよう、感染症対策に留意した面会室を新設し、関係性が希薄にならないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスの利用者さん(友人)に会いに行ったり、地元のスーパーが月に一度来荘して馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしていたが、近年は自粛している。	地域の移動販売車が定期的に来所し、心待ちにしている利用者が多く、好みの物を購入し満足している。面会室を整備し、居住地やワクチン接種の有無等制限無く面会出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係を考慮しながら、テーブル席の配置や席替えを行っている。また、お手伝い等の軽作業の時は利用者同士が支えあえるグループ構成をしている為、誰もが複数人の利用者に関わることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域連携室と連携を取りながら支援が途切れないようにしている。またいつでも相談を受け付けている旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケア会議の際や生活の様々な場面で本人の意向を聞き取り本人本位の生活が行えるように支援している。またその方の生活歴や家族の方の話なども参考にしている。	包括的自立支援プログラムをツールに要望を把握している。日常的にも想いを確認しながら、自由に過ぎて頂き、帰宅願望に対しては、家族連絡し本人宛てに手紙を書いてもらい、それを読んで安定している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・担当ケアマネから聞き取りを行い、生活環境や入所までの経緯などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	送り時に一人一人の一日の様子を確認を行っている。また毎日の食事量の把握、排泄の量・回数、バイタル測定、月に一度体重測定を行い、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の際に本人と家族からの意向を汲み取り、管理者・支援計画作成者・介護職員で話し合いを行い作成している。定期的に見直しを行っている。	普段の面会や、計画作成時に家族の意向を聞き取りしている。関係者が介し担当者会議を行い確認された意向を網羅した計画を作成しており、実践状況は毎月モニタリングを行い進捗を確認し、変化があった時は見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・送り・個人のチェックノートを出勤時に確認を行い、情報の共有を行っている。気付いた事は送り時に報告し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の際の買い物や相撲中継の際の食事時間の変更、入浴の日時の変更など出来る限り個人の要望に合わせて支援を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に二度ほど訪問販売車が来られ、利用者の方が自分で好きな物を選び買い物をしているが、地域資源の活用が少ないと思うので今後増やしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が通いなれた病院への通院支援を行い、担当医に生活の様子や本人の要望などを伝えている。状態に変化がある場合、家族へ連絡・相談を行い、必要な際は家族へ同行してもらっている。	主治医は継続とし、受診は事業所車輛を使用し職員が付き添い行っている。治療内容が変更された場合はその都度連絡し、経過報告もしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の方の状態に変化があった場合など併設施設の看護職員に相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に利用者の情報提供を行い、退院時に状況報告を受けながら医療機関と情報を共有している。また、入院中は地域連携室と連絡を取り合い、退院に向けた相談や情報交換を行える関係性を構築している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される際に施設での方針を伝え同意をもらっている。終末期には近隣の事業所への住み替えの支援や医療関係と連携を取りながら入院の支援を行っている。	入居契約時に、状態が悪化した場合に希望する介護と医療について確認し、事業所で出来る事を伝え納得を得ている。状態が悪化した場合は、敷地内にある特別養護老人ホームへの住み替えや、看取り対応している町内の病院へ入院する等、関係機関と連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成しており、年に一回勉強会を行っている。その際、マニュアルの見直しを行い、緊急時の対応や電話連絡の仕方などの確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署との連携は図れている。また、避難訓練を行っている為、全職員が避難方法を把握している。災害時は法人の敷地が広く隣接している事業所も多いため、職員が対応している。	年2回、火災と地震を想定し、ホットライン作動も一緒に訓練を行っている。法人で防災管理者を配置し、計画は各事業所で作成し、訓練の時は互いに職員を出し協力して行っている。町の避難訓練に事業所のリフト車を貸し出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや態度はとらないように心掛けており、接遇をテーマにGH内で勉強会を開催している。また職員間で言葉かけに対しお互い注意し合い改善できるようにしている。	挨拶・言葉遣い・表情・態度・身だしなみに関して施設のルールを作成し、接遇5原則と題し内部研修を行っている。全職員が報告書を提出し、理解度も確認している。現場で不適切な事例があった場合は互いに注意し合うよう、上司が指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が伝えられる場合は、希望に沿えるようにしており、伝えることが難しい場合は本人からの希望や要望が聞き取れるように会話の時間を多くとり、いくつか提案を行いながら希望に沿えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活の流れを大切にしながら、職員本位にならないように生活を送れるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整髪洗顔を行い、本人からの希望があればクリームや化粧品を購入したり、髪の毛染め、季節ごと衣替え等、本人の希望に沿ったおしゃれをできるように支援している。また、月に2回、施設内に来る訪問理容サービスで散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員の一緒の食事は行っていないが、食事の際に準備や後片付けを一緒に行い感謝の言葉を伝え食事が楽しめるようにしている。またアセスメントを行いパンやスープなど好みに応じて提供している。	人員の関係で食事は外部へ委託している。畑で収穫された物や地域から差し入れられた野菜等の下拵え、洗米、盛り付け等、出来る利用者は自発的に行い、自分の役割として定着している。季節になると地域からスイカやカボチャの差し入れが沢山あり、食事やおやつで頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者により食事が提供されている。食事量や水分量のチェックを行い把握している。アセスメントを行い、好みの飲み物や食べ物(ゼリー・ジュース・パンなど)を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。残存歯のある方にはブラッシングを行い歯茎のケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを活用しながら、排泄がなかった場合その方の状況を見ながら(落ち着き無くなったりされた場合など)トイレ誘導を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、日頃の仕草から排泄意を予測し誘導しており、出来るだけトイレでの排泄を支援している。おむつから改善が見られた事例もあり、自立を目指した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤などの内服薬を使用している方もいるが、それだけに頼らず、残存機能を活かしてトイレに座ってもらい排泄を促している。他に、乳酸菌飲料を適時飲む等、個々に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は決めているものの、本人の希望に合わせて午前・午後問わず入浴している。また、体調に合わせて入浴日の変更なども行っている。	誘導から洗身まで1人の職員が支援しており、変化に早期に対応出来る体制である。拒否が観られた場合は職員が交代する等臨機に対応し入浴を確保し保清を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方へ理由などを聞きその都度対応している。また、ホールにソファークベツを設置しており休んでもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに薬情を挟んでおりを確認を行っている。また、通院後は申し送りにて内服薬の変更をなどの情報を共有し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方との会話や生活歴の中から、その方の得意な事や好きな事を探し、お手伝いでの役割や移動販売での嗜好品の購入、趣味での必要物品の購入など支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防の為ドライブなどの外出は行えなえていないが、近くの畑に出かけて農作業をしたり、動物と触れ合っている。	コロナ禍以前は、年間で計画を立てて四季折々の名所に出掛け桜や大銀杏を愛でたり、岳キミの購入等で外出していた。現在は広い敷地内を散策し、飼育している動物と触れ合ったり、畑に行き作業を行う等、戸外に出る機会を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会はほとんどないものの、お金を持つ意義を大切に、希望があれば本人にお金を持たせ、精神的に落ち着いたり、安心できるように支援している。所持している方は施設内の販売機でジュースを購入するなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いた際は本人へ渡したり、必要であれば代読や返事の代筆などの支援を行っている。希望があれば家族との電話なども行い支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を使用し落ち着いた環境。利用者の方の作品などを棚に飾ったり、観葉植物や花を置いたりし、居心地の良い空間を作っている。	木材がふんだんに使われ、目にも優しく木の温もりが感じられる空間になっている。照明に布の装飾を施し、インテリアと光を和らげる工夫がされている。感染症対策で、食事席も密を避けるように配置しており、換気には特に力を入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方の相性などを見て、同じテーブルに座ってもらったり、テレビの前にソファを用意し思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットは施設で用意しているが、普段使い慣れた家具やテレビなどの持ち込みや仏壇、位牌などの持ち込みは自由にもらい、配置なども本人の希望に合わせて行っている。	各居室に温湿度計を設置し、快適な環境の維持と冷房作動の目安にしている。神棚や位牌を持ってきている利用者が居り、毎朝水を供え手を合わせ、心の安寧に繋がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう、その方の状況に応じ必要物品をそばに置いたり自分で行える場所に物を置くようにしている。		